
始まる前の出会いより

柊鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

始まる前の出会いより

【Nコード】

N6986F

【作者名】

柊鏡

【あらすじ】

「お兄ちゃん。初めて会ったときから愛してた」唐突に妹はそういった。ぼくは、面食って唾を呑んだ。

「お兄ちゃん。初めて会ったときから愛してた」

唐突に妹はそういった。ぼくは、面食って唾を呑んだ。

今日は妹の高校の合格発表の日で、彼女は十五歳になった。

丁度良い区切りだったんだろう。こんなことをいいだす契機となつた発想は。

「何をいつてるんだよ」

てつきりジョーダンだと思い、ぼくはいなした。

しかし、彼女は炬燵に座るぼくに寄り添って、真摯な眼差しを向けてくる。

「十五年間、想ってた」

「赤子じゃないか」

ぼくは笑った。

それでも、妹の顔は真剣なのだ。笑っているこっちが悪い気さえた。

「産まれる前から、ずっと」

泣きそうな顔で彼女はいう。

「前世つてやつか？ それじゃ、おかしい。十五年なはずないだろう」

前世なら、百年とかそんなスパンじゃなかるうか？

そんなに、短い『前世』があるだろうか？

「違うよ」妹はぼくの顔面に鼻を近づけた。全然、的外れらしい。

「解らないなあ」

ぼくは彼女の鼻息から顔を逸らす。

「私たちは十五年前に生まれた」

「そりゃそうだ」

ぼくらは双子だ。一緒に産まれた。

先に出てきたぼくが兄で、そのあと出てきた彼女が妹なだけだ。

「だから——」

「産まれた瞬間、一目ぼれってか？ そんなバカな」
産まれたてに、外界が視認できるはずがない。

「そんなんじゃない。お兄ちゃんはそのとき、お兄ちゃんじゃなかった」

ますます意味が解らない。混乱した。

ぼくはずっと彼女の兄だったはずなのだ。

「前世じゃないんだろう？」

「そつだよ。産まれる前、生まれた瞬間」

歌うように彼女は告げる。

ぼくは顔をしかめた。彼女の詞的な科白の意味が汲めない。

妹は続ける。「どうして、兄弟に産まれてしまったの？」

「知るもんか」

視界が遮られた。妹がぼくに抱きついている。

両腕を解こうとするのに、存外彼女の膂力は強くて引き剥がせない。

「大きな海原で私たちは出会ったの」

「あ……」

「解った？」

妹は微笑んだ。そして、「たくさんの同胞の中から、私はお兄ちゃんを見つけたの」といった。

そんな『前世』もあるのかもしれない。

——輪廻。

死者は月に昇り、雨となって地上へ還り、植物に吸われ、穀物となり、食した男の精子になる。

ぼくらはきつと何処かで出会ったのかもしれない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6986f/>

始まる前の出会いより

2010年10月17日07時28分発行